

佳作

東京オリンピックまで、あと一年

岐阜県 美濃加茂市立古井小学校二年 西田 江里菜

らい年の夏、東京オリンピックがかいさいされま
す。わたしは、うんどうがにが手なので、学校のう
んどう会もいやだし、走るのがはやかたり、てつ
ぼうでさか上がりができるだけでも、「すごいなあ」
と、うらやましく思います。オリンピックに出る人
たちは、もっとすごいです。きびしいれんしゅうや、
ケガにもたえて、強い気もちをもった人たちばかり
です。

その中でも、わたしがちゅう目しているのはパラ
リンピックです。パラリンピックのことは本で知り
ました。からだにしょうがいをもつ人が、いろんな
スポーツできそい合う、スポーツのせかい大会です。
わたしはパラリンピックのことを知って、とてもお
どろきました。からだがふ自由な人は、ふだん生活
するだけでも大へんなのに、手や足、目や耳などに

しょうがいがあるのに、走ったり、およいだり、車
いすにのってバスケットボールをしたりするのは、
「パラリンピックのせん手は、どうしてスポーツを
しようと思ったのかな。どうして、そんなにも気も
ちが強いのかな」。

もしわたしが、今、手足がなくなったら、スポー
ツをしようなんて、とても思えないでしょう。きっ
と、まい日ないて、まわりの人にもあたりちらして
生きるような気がします。でも、そんなことをつづ
けていても、よけいになくなるだけのようない気
もします。もしかしたら、パラリンピックのせん手
にも、そんなつらい時があつて、それをのりこえて
今があるのかもしれない。本当にすごいです。わ
たしも、気もちがおちこんでいやになっちゃうこと
もいっぱいありますが、パラリンピックのことを知
って、「つらいことがあつたとき、いつまでもそこ
に立ちどまっていはいけない。前をむいて歩こ
う」という、明るい気もちをもつことができるよう
になりました。

わたしにもゆめがありますが、ゆめはかんたんに
は手に入りません。きつとオリンピックに出る人た
ちは、まわりの人の何ばいもどりよくして、オリン

ピック出じょうのキップを手にしたのだと思います。
わたしも、オリンピックのせん手にまけないくらい
の気もちで、少しずつでもいいから、ゆめにむかっ
て、前へとすすんで行けたらいいなと思います。